

姫路で見る2020年4月の星空

図の中心が頭の真上(天頂)、まわりの円が地平線です。この星図は
見ている方向の方位を下にして下さい。月は書いていません。

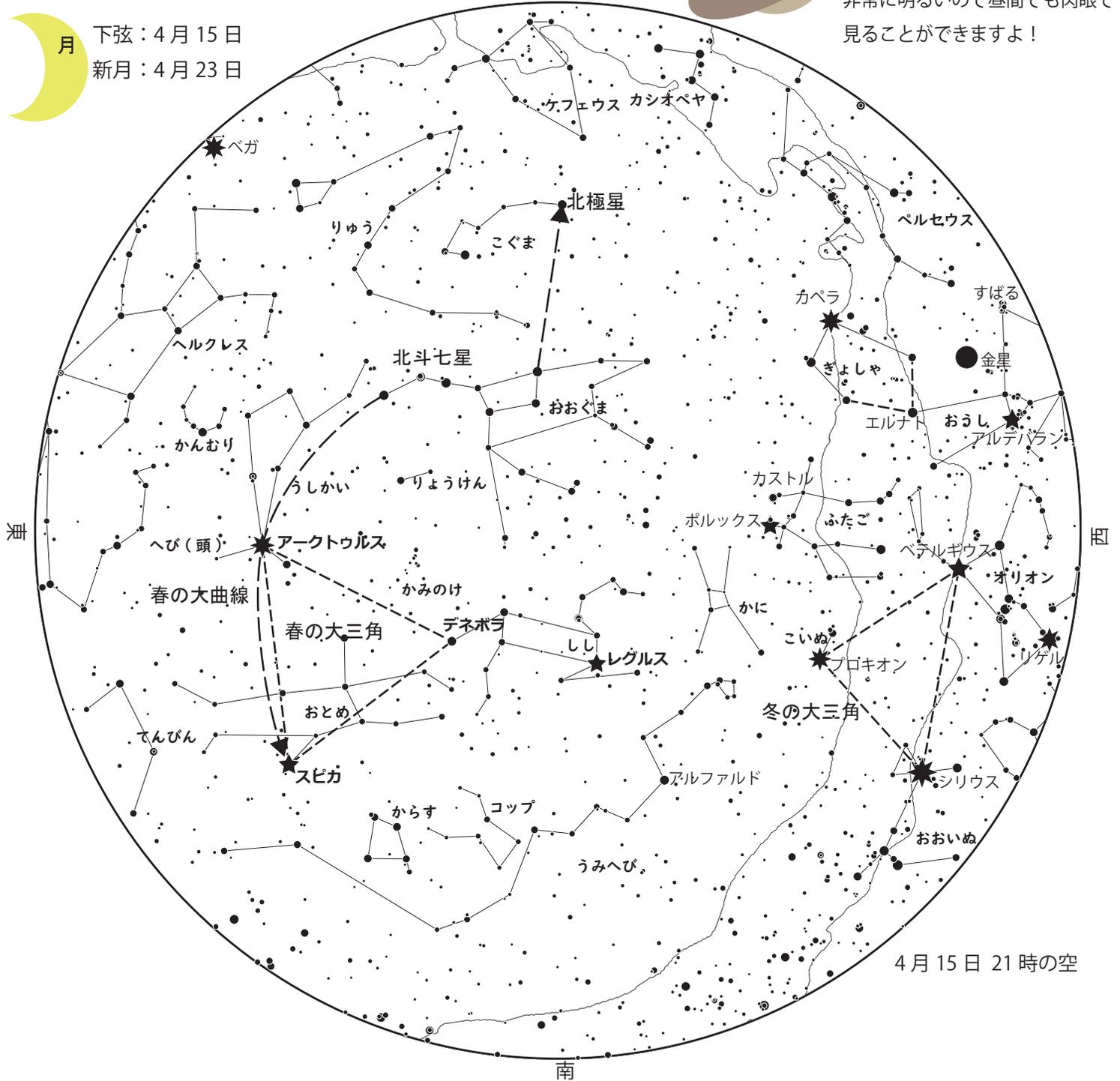


惑星

金星は4月28日に最大光度!
非常に明るいので昼間でも肉眼で
見ることができますよ!



月 下弦: 4月15日
新月: 4月23日



日が暮れて辺りが暗くなり始めたころ、西の空にひととき明るく輝いているのが、宵の明星、金星です。4月の間は一番星として輝いています。暗くなってくると西の空低くには、冬の夜空を飾っていた星たち、オリオン座のベテルギウス、おおいて座のシリウス、こいぬ座のプロキオンを結んでできる冬の大三角が、まだその姿を見せています。

春の星で目立つのは、北の空にある、ひしゃくの形として有名な北斗七星。北斗七星はおおぐま座のしっぽにある星の並びで、他の星たちの居場所を教えてください。ひしゃくの器の先を伸ばすと北極星が、ひしゃくの持ち手の先を伸ばすと、うしかい座の1等星アークトゥルスが見つかります。そのままさらに伸ばしていくと、おとめ座の1等星スピカも見つけることができます。

北斗七星の先からアークトゥルス、スピカまでの線を春の大曲線と呼びます。

南の空高くには春の星座の王、しし座が見えています。しし座を見つける時は、まず「？」マークを裏返したような形を探してみましょう。これがしし座の頭から胸元です。「？」マークの一番下、胸元の明るい星が、しし座の1等星レグルスです。そこから東にすすんでいくと、しし座のしっぽ、2等星のデネボラがあります。

アークトゥルスとスピカ、そしてデネボラを結ぶと、春の大三角ができあがります。

そろそろ見納めとなる冬の星たち、そして春の夜空の主役たちを、ぜひ見つけてみてください。